

授業科目名 (英文名)	薬理学 (Pharmacology)	科目区分 対象学生	
単位数	1.0	開講年次・ 学期	2年次・前期
担当教員	岩川 精吾	所属	非常勤講師
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>的確な薬物療法を行うために必要な考え方（薬理作用、有害事象、与薬時の注意事項）の基礎を習得する。</p> <p>1．主要な疾患の治療薬について、その作用を概説できる。</p> <p>2．主要な薬の注意すべき副作用、与薬時の注意事項を概説できる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>講義内容 テキストを用いた講義を受講することで、主要な疾患の治療薬についてその作用や副作用を理解し、与薬時の注意事項を把握する。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 薬理学総論 [テキスト1章] ・薬物の作用点 ・薬の投与経路と薬物動態</p> <p>第2回 自律神経系に作用する薬 [テキスト2章] ・交感神経系と薬 ・副交感神経系と薬</p> <p>第3回 体性神経系に作用する薬 [テキスト3章] ・局所麻酔薬 ・神経筋遮断薬</p> <p>第4回 中枢神経系に作用する薬 [テキスト4章] ・統合失調症治療薬、気分障害治療薬 ・睡眠薬、抗不安薬 ・全身麻酔薬、鎮痛薬</p> <p>第5回 抗高血圧症薬など [テキスト5章] ・カルシウムチャンネル遮断薬 ・アンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシン受容体拮抗薬</p> <p>第6回 糖尿病治療薬など [テキスト10章] ・インスリン ・経口糖尿病薬</p> <p>第7回 抗炎症薬など [テキスト11章] ・副腎皮質ステロイド薬 ・非ステロイド性抗炎症薬</p> <p>第8回 抗感染症薬など [テキスト12章] ・抗菌薬 ・抗ウイルス薬</p>		
テキスト	石井邦雄 / 著 : イラスト薬理学 羊土社		
参考文献			
成績評価の基準・方法	<p>薬物療法を行うために必要な考え方を問う看護師国家試験問題を参考にした試験と確認問題の正答率が60%以上を単位取得の基準とする。</p> <p>試験（80%）と講義終了後の確認問題（20%）</p>		
履修上の注意・履修要件	授業計画に記載している該当箇所のテキストの章の予習をし、復習では講義で注意すべき事項として説明した内容を確認する。		
実践的教育	該当しない		
備考	プリントを配布することがあります。		